

海域の概要

本湾は、日本海がもっとも深く入り込んだ部分に相当する湾です。湾内はリアス式海岸を形成しており、北部は若狭湾に開いています。五老ヶ岳から眺める舞鶴湾の風景は、近畿百景の第1位に選ばれています。



Specification

諸元

湾口幅：2.7 km

面積：22.87 km²

湾内最大水深：3.0 m

湾口最大水深：3.0 m

閉鎖度指標：1.77

備考：環境基準類型指定水域

Location

範囲または位置

京都府舞鶴市金ヶ崎から13度に引いた線及び陸岸により囲まれた海域。

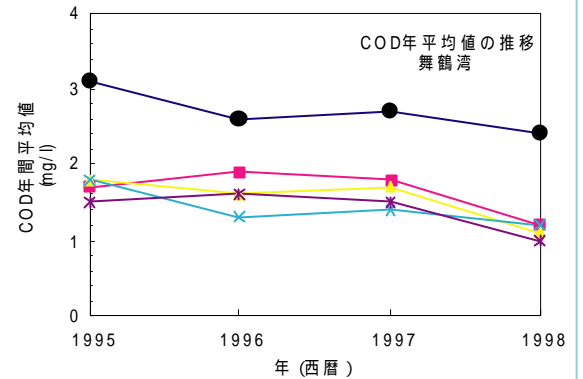


環境

舞鶴湾の気候は、春・夏はフェーン現象が起こりやすく、冬は対馬暖流の影響で気温は比較的に高いですが、多雪となっています。

閉鎖性が高く、夏季には人口が密集する湾奥部には貧酸素水塊が形成されることも多いため、水質悪化が進んでいます。COD年平均値では1～3mg/lで推移していますが、若干、減少傾向にあります。

底質は、リアス式海岸のためほとんどの沿岸部は岩礁性であり、海底は砂泥及び泥よりになっています。



自然

舞鶴湾は、若狭湾西部海域に存在する湾内では最も地形が入り込み、北部に開いた湾口部から東西に肢湾が伸び、天然の極めて優れた良港となっています。また、海岸線一帯は、入り江と岬が美しく交錯したリアス式海岸で、若狭湾国立公園に指定されています。

湾と若狭湾をつなぐ水道部には、ホンダワラ類の藻場が分布していますが、湾奥部にはほとんど藻場はありません。

舞鶴港は、その地形から湾内の干満差が最大 30cm と小さく、また四方を 400m 級の山で囲まれていることから、強風・荒天を避けることができ、港としても船舶関係者からも理想的と言われています。



入り江と岬が入り組む

文化歴史

舞鶴市の歴史は縄文・弥生時代の生活跡が発掘されているように古く、その後丹後国が設置され、天正年間には細川氏が領有して町割りが行われましたが、田辺城の天守台跡や商家や掘割、また高野川尻の倉庫群に城下町当時の面影が残っています。

明治に入ると海軍鎮守府がおかれ、軍港として発展し、終戦後の昭和 20 年 9 月には引揚港に指定され、主に中国、シベリアからの引揚者を受け入れています。

戦後は、舞鶴港の重要港湾指定以来、近畿国分の港湾流通の拠点として都市が発展し、臨海部には工場の立地を図り、日本海の中核都市のひとつとしての地位を確立しました。

産業

豊富な海洋資源とリアス式海岸の恵まれた地形を利用した水産業、臨海性工業が伝統的に盛んです。

湾内ではトリガイが漁獲されます。太平洋側、瀬戸内海などで漁獲されるトリガイに比べ大きいのが特徴で、京阪神市場で人気が高く、特産的なものとなっています。しかし、その漁獲量は0～200トンと変動が大きく、不安定なものとなっています。



トリガイ